通信コーナー

２０１９．１０．０１

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、10 月というのにこの暑さは尋常ではありません。秋らしい気候となるのはいつのことでしょうか？
アジアで初めてのラグビーワールドカップが日本で開催され，日本代表の大活躍で列島が沸いています。俄かラグビーファンが闊歩して、ラグビーの話題で持ちきりです。一昔前まではラグビーでは人が呼べないと言われ続け、やっぱりサッカーだよねと言われていましたが、全国のラグビー場が連日超満員です。
よくぞ日本開催に踏み切ったと思います。日本チームは２試合ですけれども期待に違わず大健闘です。ランク２位のアイルランド代表を１９対１２で下しました。ベストエイトは見えてきた。前回、南アフリカに番狂わせで勝利して自信を付けてきて、強くなったと思う。フォワード戦で負けていない。スクラムやラックにおいても対等以上に戦っている。素晴らしいことです。日本選手にエールを送ります。
本日 10 月 1 日より複数税率の消費増税がスタートです。とりあえずは法令に従って、粛々と商行為をする中で慣れていかなくてはなりません。　　話変わって、盛和塾は設立から 36 年。稲盛氏が 87 歳と高齢になったことから今年で解散することが決まっています。京セラを一代で世界的な企業に育て上げた稲盛和夫氏に教えを請いたいという若者の働きで盛和塾は出来た。稲盛氏の何が国内外から経営者をひきつけるのか？それは、経営思想の根底にある「哲学＝考え方」だ。「フィロソフィ」と呼ばれ、盛和塾の塾生に広く浸透し、「経営の道しるべ」となっているためであろう。「人として何が正しいのか」「人は何のために生きるのか」という問いに向き合う考え方で、著書にも「大きな志を持つこと」「常に前向きであること」「誠実であること」「挫折にへこたれないこと」といった言葉が並んでいます。稲盛氏は、経営をするうえで、「人として正しいこと」を考え、行うことが最も重要だと説き続けてきた。熊本県で飲食チェーンを経営する K さん。経営に悩んでいた時に稲盛氏の著書に出会い、衝撃を受けたという。2004 年に入塾して以降、稲盛フィロソフィをもとに「正直な経営」を判断の軸にする自分なりの経営理念を立てたところ、利益率が１桁から２桁に。３年前の熊本地震では、店舗が大きな被害を受け、休業を余儀なくされたが、盛和塾で学んだ「どんな苦難でも前向きに生きる」という教えのもと再建を志すことができたと話す。「盛和塾の活動が終わったあとも、塾長の教えを社員と共に学び続け、会社再建を進めていく」と、そう誓った。『従業員にすばらしい人生を送ってほしい』という強い思い、限りない愛がすべての根底になければなりません。「経営者本人が常にみずからに厳しく規範を課し、人格を高めようとし続ける姿を示すならば、それを見た従業員もおのずからフィロソフィの実践に努めようとするはずです」従業員のために社長が誰よりも苦労している姿ほど、共感を得るものはありません。ですから、会社のなかで経営トップがいちばん苦労しなければなりません。そうすれば、従業員は必ずついてきてくれるものです。デジタル技術がここまで進展した今、人としてのありようを根本から問いかける哲学は、古臭く聞こえる人もいるかもしれませんが、確実に根づいていくことでしょう。
言ったことを実行する「有言実行」が求められるのはいつの時代でも一緒です。